

平成29年度 つくし保育園 園評価

◎保育家庭年間総括・保護者アンケート・職員の自己評価・第三者委員との話し合いを基に、事業計画に沿って園評価を行う。

<子どもの全面発達の保障>

4月、職員集会で近藤幹夫先生の『保育とは何か』についての講演の中で、“遊ぶことにこだわる”話がされた。遊びから学べることはたくさんあり、子どもたちにどんな経験をさせたいのか、何に気付き、考えてもらいたいのか等、意識しながら保育をしてきた。とにかく子どもたちが楽しいと感じるあそびを考え、さらに子どもと一緒に考えてもの作りや遊ぶことを楽しんできた。どこのクラスも身体を使ってとことん遊ぶことを大事に近隣の公園へ出かけ高低のある場所で走り、よじ登る活動を意識的に取り入れていた。子どもたちがどんな活動、遊びをすると足腰の力となるのか、「〇〇の力をつけたいから～の活動をしよう」等、職員間で話し合いながら活動を考えている様子が見えた。心を解放しながら遊んできた夏以降は、運動会、生活発表会など、各年齢なりの子どもたちの心の葛藤する姿が見られた。一人一人の子どもたちの姿・思いに、園全体で関わってきた。一人一人葛藤の仕方、出し方が違うため子どもの思いに寄り添うことは容易ではないが、“何とかできるように”と悩み、必死になる保育者の関わりや思いが実った一年間だった。

<家庭との連携>

・以前から、信頼が崩れてしまった家庭とは修復できるようにと園全体で努力してきたが、母親は頑なに拒否し一度できた溝は深まるだけだった。引っ越しすることが決まり今年度いっぱい退園となる。また、保護者アンケート（回収率100%）や日頃の会話から園の方針、行事や保育活動、保護者会活動についての不満の意見が聞かれた。日頃の保育活動を写真入りで子どもの姿、表情を通して伝えられるよう掲示し知らせてきているが伝わらない家庭もある。父母の就労の大変さもあるが「子どものために」ではなく、親中心の考え方が増えているように感じる。保護者への丁寧な説明、理解、どう保護者を支援していくのか、園と保護者で手を繋ぎ「こどものために」子育て・保育をどう楽しんでいくのかが課題である。生活発表会の職員劇「おこだでませんように」の中に保護者へのメッセージを入れて演じ見てもらった。登園時間が遅くなっても当然のように入ってきた保護者も、「すみません、遅くなりました」というようになり変化がみられた。伝え続ければ響く保護者もいることに嬉しく思った。園からのお願いばかりでは受け入れられない保護者もいる中で、送迎の際に「おかえり」のことばに子どもの姿など一言付け加えながら、常に保護者にも“子どもの事を見ているよ”と“目をかけ、手をかけ、声をかけ”ていくことを確認した。「おひさま浴びて、泥にまみれたつくしの保育“つくしらしさ”をずっと大事に続けていってほしい」という保護者も多くいてくれる。その思いが職員の励みとなっている。

<地域の子育て支援の拠点>今年合研に参加した保護者が感銘を受けた熊丸みつ子先生に依頼し、保護者会と園と共催し、一斉クラス懇談会で講演会を行った。保護者・地域・職員合わせて63名の参加となった。日頃の子育てでの“イライラ感”“大人が困ったと思う子どもの行動”などその姿こそが「子育て順調よ！！」の言葉に保護者、地域のお父さんお母さん、職員も皆「ホッ」とさせられ、元気と安心感をもらえた。また、ハナミズキ祭りに参加し地域の子どもたちやお父さん、お母さんに遊びの提供

や、子育ての悩み等、相談にのれるようにしてきた。地域からの相談は今年もなかったが、保護者や卒園児の親から小学生についての相談があり随時、話を聞いてきた。

<職員の資質向上・民主的集団作り>

保育や子どもについてうまく語れない雰囲気や思うようにできない悩み、仕事をする中での負担感、などいろいろな思いを出し合った。職員の顔色を窺いながら一緒に保育するのは苦しい。保育は職員が苦しいと、子どもも苦しくなってしまう。職員が楽しいと子どもも楽しくなるのだと実感する。日頃から、子どものために、子どもの姿やクラスの保育について語り合い、職員間の意思疎通や信頼関係づくりをはかっていくことも大切である。自分の弱音を人の前でいえるということは、その人が成長しているということ。職員会議の中で思うことを出し合い、溜め込まずに悩みや思いを出し合う、大切さを園全体で確認した一年であった。

<保育園の社会的責任>

・北口整備事業がすすみ、園舎建設についても間近となってきている。設計については設計会社も決まり、何度も話し合いを持ってきた。資金繰りでは、補助金が何とかもらえるように甲府市と懇談を持ち、お願いする中で申請が検討できる。様々な書類を提出している。勤医協とも懇談を持ち資金繰りに関して区画整備の工程と建設の工程に関しても意見交換しながら、つくし保育園が存続していく方法を考えている状態である。職員として今できること（設計、財政活動）は、一丸となって取り組んできた。今後は第一回建設委員会（3/27）を開き、寄付金に関して等、具体的な動きができるようにしていく。

<地域・専門機関との連携>

・小学校や療育専門機関との連携を取り、必要に応じて懇談を持ってきた。また、保育実習生（大学・短大・専門学校・小・中・高）や看護実習生、研修医を受け入れ、つくしの保育を知ってもらい、子どもたちの姿を見てもらった。